

白門経友会

多摩キャンパスは

新しい時代を迎えようとしています

ウィズ・コロナと言われますが、まだまだ安心できない状況が続いております。皆様健康やお過ごしでしょうか。さて、本年は中央大学にとって大きな変革の年です。四月に法学部が都心に移転し、多摩キャンパスも大きく変わることでしよう。法学部に代わって経済学部



が、多摩キャンパスの中核として存在感を示せるようになっていきたいと思います。そのためにも、OBの皆様のご協力が欠かせません。白門経友会につきましても、6月の総会をはじめとして活性化を図りたいと思います。よろしくお願いたします。



経済学部百周年記念奨学金 受給者の活躍

中央大学経済学部では、「實地應用ノ素ヲ養フ」という中央大学の建学の精神のもと、経済学部のアドミッション・ポリシーに掲げる「冷静な思考力と温かい心を持った国際的な視野に立つ「経済人」の養成を理念とし、実社会が求める人材養成のため、専門知識と社会人基礎力の修得に力を入れています。そのために、ゼミナール、キャリア教育、グローバル人材育成の三つの実践教育を柱として、これらの活動やプログラムに積極的に参加することを奨励しています。

一九〇五年に設置された中央大学経済学部(当初名称は経済学科)は、二〇〇五年に創立百周年という節目を迎え、このことを記念して多くの篤志家から多額の寄付が寄せられました。その熱意あふれる意思を尊重する形で、経済学部生のキャリア形成に必要な能力の向上を支援することを目的として、二〇〇九年度にご篤志を原資とした「経済学部創立百周年記念奨学金」が創設されました。

この奨学金は給付型の奨学金であり、明確な将来の夢を抱き、その実現に向けて計画を立て、熱意を持ってチャレンジする学生(※)を支援することを意図しています。この十年間で約二〇〇名の学生が受給し、大きな成果を上げてきました。

- (※) 出願内容の例
- 一 公認会計士を目指している。

- 二 学部で学修している学問をさらに追究するため大学院への進学を考えている。

- 三 将来、海外と関わりの深い企業や組織、国際機関、国内政府系機関、非政府/非営利団体(NGO/NPO)等)への就職を考えているため、長期海外留学または短期語学研修を考えている。

本号では、その一端を紹介すべく、中央大学経済学部の公式WEBマガジンから、奨学金受給者の活躍の一部を抜粋して掲載いたします。

受験の挫折から大逆転。難関資格に挑み、金融大手に就職した 充実の四年間

山本さくらさん



(山本さんは、国立大学を目指して一年間浪人しましたが、その努力は実らず、本学に入学することになりました。しかし、「受験の結果としては開いてしまっているこの差を大学四年間あれば埋められる、又は超えられるのではないか」と考え直しました。そこで、「百周年記念奨学金」を受給し、証券アナリスト二次レベルを取得して、二〇二一年度に卒業されました。

浪人時代と同じように、大学で過ごす四年間も前進し続けることを決心した私は色々なことにチャレンジしました。語学力を伸ばすためにフランス語検定、元々数字を扱うのが好きだったため数学検定、バイト先の経理を任せてもらいたいと思い簿記検定、インターン先で社会の基礎が学べると聞いてビジネス実務法務検定など・・・どんな些細なきっかけでも、自分がチャレンジしたい!と思っただ資格を次々勉強し、取得しました。さまざまな分野の勉強を進めていくうちに、自分の得意不得意・興味の有無が

御茶ノ水から始まった 書籍との出会い

谷口 洋志



二〇二三年三月末の定年退職まで四月という時期にこの原稿を書いています。研究室に置いていた書籍を四分の一程度片付けただけでまだ大量の書籍がどう処分されるかの判決を待っています。最も残酷な処理であるゴミとしての焼却はありませんが、一部は自宅に、一部は友人・知人に、一部は古本店へとバラバラの人生を歩むこととなっています。

食費や生活費をぎりぎりまで切詰めて買い集めた書籍の運命がこのようになるとは予想もしませんでした。御茶ノ水の学生時代は、空っぽの運動用バッグを持って大学に行き、授業が終われば神田神保町の古本店にまっしぐら、そして財布の中にある現金のほとんどを使って、バッグにはいるだけの古本を買い集めて帰る(住み込みで働いていたアルバイト先へ)日々でした。

書籍購入に使ったお金は最低でも一

日千円(七〇年代前半)、お腹がすいたときは大学生協で、五〇円の日ぶらそば、ときどき贅沢に八〇円のカラーライス(いつ見ても具が見当たらない不思議なカレー)を食べ、二カ月に一回の超贅沢が三〇〇円超の天井(天井「いもや」もう一軒、天ぷら定食が美味な「いもや」もあったが、ここは大学院時代から通った)でした。

生活費に占める食費の割合をエンゲル係数と言い、エンゲル係数の高さと生活水準は反比例するというのが通説ですが、私の場合は極貧状態にありながら、エンゲル係数が異常に低く、その一方で書籍文化への資金投入で計った文化指数は異常に高いという、異常値の人間でした。それでも満足でした。神保町では毎回三〇店舗ほど回り、隅から隅までの棚を調べまくり、時には店頭のワゴンにある本をひっくり返して欲しい本を探しまくったものでした。

旧ソ連・ナチスの秘密警察や中国の警察・公安顔負けの徹底した調査・取り調べでしたから、毎回掘り出し本に遭遇しました。例えば、フリードマンの絶版本『消費関数の理論』(翻訳)をワゴン内で五〇〇円で見つけたとき(学部時代)、米国両院合同経済委員会の三冊本『公共支出の分析と評価』(原書)をこれもワゴン内で計三〇〇円で見つけたとき(大学院時代)は小躍りしました。

また、清水の舞台から飛び降りるつも

りで一万円はたいて買った本が古本店で千円で売られていたときは怒るようにしてその二冊目を買いました。ハードカバーを持っているのにソフトカバーが売られているときも二冊目を買いましたので、同一タイトル本が二冊以上あるものが結構ありました。それを友人に自慢げに話したら、「おい、谷口、我々にも購入できる本を残しておいてくれ」と何度も言われたものでした。

神保町には、御茶ノ水の学生時代から四〇代までほぼ週三回のペースで通いました。行きの荷物は軽いのに帰りの荷物はやたらと重く、一回の神保町詣で一万歩は歩くので、足元には値段がやや高めで自分の足指に最適だったスポルディングの靴をはいていました。

大学院時代には友人からよく、「自分は本が欲しいのだが、いくらで手に入るか」と聞かれました。その本は三店舗にあるけど、A店にある本は美装で高く、B店なら汚れているが最安値、C店はその中間だ、などと返していました。黙っていました。友より先に自分が本だったならば、友人より先に自分が行って最安値の本を買っておいたものでした(数十年後の告白)。

こんな風に思い出の詰まった書籍ばかりなので、大半を処分することには複雑な気持ちです。たとえ友人に譲っても、その本の値打ち、貴重・希少さや入手するまでの苦労や時間を理解してもらおう

経済学部百周年記念奨学金受給者の活躍

分かってきました。また、二年生の後半には徐々に就職活動が始まり、自分の将来について考える時間が増えました。

大学受験で失敗した悔しさだけでひたすら勉強してきたつもりでしたが、その時にははつきりと自分の中で分かったことがありました。それは、私は数字でこの世界を読み解く。経済学が好きで、これからも学び続け、出来ることならばその知識を使って仕事をしたかったことでした。

そうして私は残りの二年の学生生活を「証券アナリスト」の資格取得に費やすことに決めました。

周囲に気軽に質問できる相手もいない状況での独学勉強は心が折れそうになることもありました。そんな時は金融系の企業の説明会や座談会に参加し、実際にやりがいや目標を持って働いている方の話を聞いてモチベーションを保っていました。また、『マツチャー』や『ビズリーチ・キャンパス』などのOB訪問が出来るアプリも活用し、悩み相談や分からない問題の質問などもしました。

四年次の四月には、証券アナリスト一次レベルの【証券分析】【財務分析】【経済】の三科目全てに合格。また、六月には金融系の大手企業である東京海上日動火災保険株式会社に内定をいただき、就職活動を終えました。翌四

ことは難しいでしょう。

ここで、一般の人には何の興味も関心もわかないことですが、私が自費で購入した書籍の一端をご紹介します。

白門経友会の皆さんであればおなじみの英国経済学者の書籍(英文、以下同じ)では、ピグー、J・ロビンソン、カルドア、ヒックス、ミシヤン、ミードの著作が各一〇冊前後、ハロッド、ロバートソン、ピーコックの書籍も各五冊前後あります。ケインズの著作も何冊かありますが、他と比べて少ないのは周辺にケインズ研究者が多いので、以前に何冊か贈与したためです。

米国経済学者の場合には、ブキャナンとタロク関係で五〇冊前後、アロー、ボーモル、ウイリアムソンが各一〇冊以上、ほかにも同一人物の著作で五冊以上揃っているものが多数あります(サムエルソン、ソロ、フリードマン、ステイグラール、ベッカーなど)。変わり種では、インド出身の経済学者センの著作が二〇冊前後、米国哲学者ロールズと法・経済学者ポズナーの著作が各一〇冊前後、哲学者ノジックや社会生物学者ウイリソンの著作が五冊ほど。このほか、マクロ・ミクロ関係や財政学・公共経済学関係がそれぞれ百冊以上、さらに、公共選択論・社会選択論・厚生経済学の基本著作はほぼすべて揃っており、企業理論・企業組織論、所有権の経済学、正義論、政治科学、ゲーム理論、産業組織論、規制理論、電

気通信の経済学、インターネットと電子商取引の経済学、法と経済学、費用便益分析などの分野の基本著作や、(上記と重なりますが)シカゴ学派・ヴァージニア学派・オーストリー学派・カーネギー学派(経営学)の著作もかなり揃っています。これらはすべて部分的にも研究を行ったことがある分野です。

英語の文献に劣らず、翻訳物を含め日本語文献も相当数あります。経済学を中心とする社会科学だけでなく、哲学書や小説も沢山あります。小説は文庫本で読むことを原則としましたが、それだけでも千冊はあるのではないかと思います。長編物と特定作者が好きで、小島直記、高橋和巳、石川達三、夏目漱石、井上ひさしは全部買って読み、外国物ではドストエフスキー、アレクサンドル・デュマ、サルトル、フォレットの大聖堂シリーズ、マーガレット・ミッチェル、シャロット・テ・ブロンテ、シエークスピアの著作やギリシア悲劇が好きでした。

哲学では、電車の中でカントの「純粋理性批判」や「実践理性批判」を読み通したことが思い出されますが、ほとんどちんぷんかんぷんでした。退職後に時間をかけて読もうと、アリストテレスとカントの全集もあります。ほんとうは、キルケゴール、ショウペンハウエル、ニーチェの全集もほしかったのですが、ありませんでした(ニーチェの主要著作は文庫本を通してほぼ読んでいますが)。

二〇〇五年から一年間、中国上海で在外研究を経験してからは、中国語学習をゼロからはじめ、一年後には中国語の著作や資料を辞書片手に読みあさりしました。おかげで中国語文献も数百冊集まりましたが、貧困と改革関連の重要文献を除いてはほ他の方に譲りました。上海や北京の巨大書店で購入した統計年鑑(一冊五千円前後、片手で持てないほど重い)の類は、研究室の床が抜け落ちることを心配してゴミ処分しました(もしかすると、誰かに拾われてどこかの古本店内に回っているかもしれない)。

自分が別世界に旅立ったときに書籍を売却すれば一千万円にはなるよ、という遺言を残そうと思ってきたのに、時代がパソコン・スマホ・インターネット中心になると紙文化は廃れ、かつての有名な古本屋は廃業し、自分以外の人にとっては「書籍とは、重くて場所をとる迷惑なゴミ」となっている現実。いった自分の人生は何だったのだろうと考えてしまいます。

しかし、神のお告げなのか、最後になつて大事なことが脳裏に浮かんできました。書籍は飾ったり、売却して遺産として残すために買ったのではなからう、所存する多くの本をお前は実際に読んで何でもないのか、と。どうやら、紙から始まった私の(軽い)人生は、最後は神の(重い)一言で終わりそうです。

経済学部百周年記念奨学金受給者の活躍

月の証券アナリスト四次レベルの試験に向けて日々勉強をしています。

今後は金融業務の実務経験を積み、「証券アナリスト」を取得することが私の直近の目標です。その後、勉強した知識を活用して自分の会社を持ちたいという大きな目標があります。

また、就職活動を経て大きな目標が増えました。女性はまだまだ男性に比べ、バリバリ働きにくい風潮が残っていると感じます。四月から仕事に没頭し、その日本の古い概念を壊す女性の一人になりたいと強く思います。

授業で「ゲーム理論」に魅せられ 研究者を志して大学院へ。

方(ホウ)小セン(ショウセン)さん



(中国からの留学生である方さんは、マツチング理論を深く学ぶために大学院進学を考え、その勉強に集中するために「百周年記念奨学金」を受給し、二〇二二年度に卒業されました。

一流大学の経済学研究科に合格できるように、三つの目標を設定しながら大学院入試の準備を行いました。一つは「語学成績の取得」です。昨年は、

中央大学のTOEFL対策講座を受講しながら、TOEFLの問題集TPOを何度も解きました。その結果、一〇三点を獲得することができ、目標を達成しました。

二つめは、「専門知識の勉強」です。大学院入学試験において、筆記試験を通すために中級レベルのミクロ・マクロ経済学の勉強が必要となります。しかし、自分の力だけで一流大学に合格するのは難しいと考え、専門知識を習得するため大学院進学塾を利用して、大学との両輪で勉強を進めました。四年生前期には、大学で中級ミクロ経済学と経済数学を履修しながら、塾でマクロ経済学と過去問演習を行いました。また、幅広い知識を身に付けるために専門書を購入し勉強しました。とりわけ、神取道宏の『ミクロ経済学の力』と福田慎一の『マクロ経済学・入門』が自分にあっており、これらの本を通じて、ミクロ・マクロ経済学を学びました。

三つ目は、「研究計画書の作成」です。価値のある研究計画書を完成させるためには、ある分野の最新専門知識を勉強することが必須となります。ギボンスの『経済学のためのゲーム理論入門』、ハーリンジャーの『マーケットデザイン』、安井洋祐編著の『学校選択制のデザイン』を読み、ゲーム理論の中でもとりわけマッチング理論に重点を置き勉強しました。

このほかに、ゼミの章先生からアドバイスをいただき、研究計画書を完成させることができました。松八重先生、瀧澤先生からも研究に関するアドバイスをいただき大変感謝しております。

修士課程(東京工業大学大学院)では中央大学で学んだことを活かしながらマッチング理論の研究を深めていきたいと考えています。マッチング理論の研究のゼミに入り、さらに勉強や研究を進展させたいです。社会に有用な研究を提出して博士課程へ進学することも視野に入れていきます。

もう一つ、マッチング理論を他者にわかりやすく説明できるようになることも目標です。そのためには、学内における研究発表会に参加し、マーケットデザインに関する理解を深めることが重要だと考えます。さまざまな学会に参加し、日本語と英語での発表能力を磨き、自分の研究を世界に発信したい。そしてご支援くださった全ての方々への感謝を忘れず、目標に向かって更に精進していきたくと思います。



ハウ ショウセンさんが学習のために購読した本

編集後記 (副幹事長:鳥居 弘太郎)

正月の第九回箱根駅伝で、本学は第二位と大きな飛躍を遂げました。そのためか久しく連絡の途絶えていた卒業生から沢山の便りがあり、伝統ある経済学部における意識を共有した気持ちになりました。本号では、経済学部創立百周年記念奨学金の受給者から、OGとして活躍中の山本さんと方さんが在学中に取り組まれた成果を紹介いたしました。コロナ禍においても持ち前の前進力で成功を勝ち取ったストーリーです。

さて本年三月をもって退職される教員は、つぎの方々です。

- ・井上英治教授(民事法)
- ・谷口洋志教授(経済政策)
- ・数田雅弘教授(公共経済)

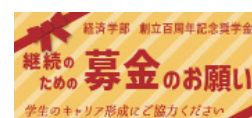
谷口先生には、本号にも寄稿いただきました。ゼミの海外研修が膨大な中国語文献も背景に達成されていたことが分かりました。学部長時代はセンスある駄洒落を披露されていました(神の(重い)一言)とは正に真打のお言葉です。井上先生のゼミでは、演習テーマ「憲法解釈論と憲法訴訟」において自由な憲法の議論を行ってこられ、多方面の分野とくに官公庁の人材を支えられています。数田先生は持続可能な観光とグリーン・ツーリズムについて、またコロナ禍における観光政策においても、ますます重要となってきた実証分析をされています。

経済学部創立百周年記念奨学金 へ募金のお願 (目標金額 六〇〇万円)

学生のキャリア形成を金銭面から後押しする「経済学部創立百周年記念奨学金」の原資が、三年後にも尽きようとしています。

本奨学金は給付型の奨学金であり、二〇〇五年の経済学部創立百周年を記念して多くの方から寄せられたご篤志により創設されました。以来十年間で約二百名の学生を後押しし、各々が大きな成果を挙げてきたこの奨学金を、これからの学生たちにも同様の制度として継続したく、現奨学金への追加という形で皆様の支援を賜りたくお願い申し上げます。

募金方法や税制上の優遇措置など、詳しくはWEBサイトをご覧ください。中央大学ホームページの経済学部トップから黄色のパナーをクリック。スマホはQRコードから。



2023年1月10日 第83号

発行 白門経友会常任幹事会

編集 白門経友会編集委員会

〒192-0393

東京都八王子市東中野 742-1

中央大学経済学部内

URL : www.wg-keiyukai.com

Fax : 042-673-3425